

# 10月3日(日)

聖書

ヨハネ 4・1～19

聖句

わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがない。 14節

「今年の夏はどうでしたか?」「やっぱり暑かったよ。飲んでも飲んでものどが渴いたよね。」ここで女の人が、暑い時に井戸からくんだ水も、「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう」と言われた水でした。ところが、「いつまでも、かわくことがない!」「そんな水があるなら絶対、飲みたい!」と、この女の人は、かりでなく、私たちだって思います。それは、イエス様が与えてくださる水なのですね。その水について今週考えてみましょう。

祈り 天のお父様、イエス様がくださる渴くことのない水を知って、しっかり飲んで潤されるようにしてください。



聖書

ヨハネ 4・1～19

テーマ

尽きない喜び

暗唱聖句

わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがない。

ヨハネ 4・14

目標

キリストにある喜びの生涯を生きる。

カリキュラム番号 27

# 10月5日(火)

聖書

ヨハネ 4・13～14

聖句

わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。 14節

イエス様の十字架から流れってくる、罪のゆるしの水なのだとわかりますね。この夏のキャンプで、イエス様の十字架が、この私の罪のためだったのだとはっきりとわかって、罪をおわびし、イエス様の身代わりの十字架を信じて救われたお友だちも、きっといると思います。あなたはもうですか? 罪がゆるされる喜び! それだけではありません。永遠の命、きよい神様の命、罪に勝つ命、たとい死んでも必ずよみがえる命が与えられたのですから、ハレルヤです。

祈り 天のお父様、イエス様が与えてくださる罪のゆるしの水をありがとうございます。喜びが心にあふれます。

# 10月4日(月)

聖書

ヨハネ 4・15～19

聖句

イエスは女に言われた、「あなたの夫を呼びに行って、ここに連れてきなさい」。 16節

女の人はずぐに、「その水をわたしに下さい」とイエス様に言いました。あなたがそこにいたら、やっぱり同じことを言ったでしょうね。するとイエス様は、女の人が隠しておきたい、言いたくないと思っている夫のことを、ズバリ言われたのです。女の方はビックリしたでしょう。あなたにも隠しておきたい心の秘密がありますか? イエス様は全部知っていてくださって、女の方の心やあなたの心を開いて、わき出る泉を与えたいと思っておられるのです。

祈り 天のお父様、かわくことのない水を飲む前に、心を開いて、きれいにさせていただかなければならないと知りました。

10月7日(木)

聖書

ヨハネ4・27～30

聖句

わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらんなさい。 29節

この女の人の心の中に、イエス様からの水が注ぎこまれて、ほんとうに、泉がわきました。自分のことをみんな知っていてもらえるという喜びの泉です。何でもわかってもらえて、そしてゆるしてもらっている安心と喜びと感謝の泉です。泉を見たことありますか？ こんこんとわき出ていて、どんなにふさごうとしてもだめです。どんどん押し流し、わき出ます。女の人の心の中から、イエス様を伝える喜びの泉がわきあがり、あふれて出てきました。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様ご自身こそが、信じる私たちの心の泉なのだとわかります。伝えないではいられません。

10月6日(水)

聖書

ヨハネ4・23～26

聖句

イエスは女に言われた、「あなたと話をしているこのわたしが、それである」。26節

「キリストと呼ばれるメシヤがこられたら、いつさいのことを知らせて下さるでしょう」と、女の人が言ったとき、「このわたしがメシヤだよ」とイエス様は女の人に答えました。イエス様とお会いするなんて、何という喜び！ イエス様とお話しできるなんて、何という喜び！ 私たちにも同じ喜びが与えられるのです。まずは、週の初めの日曜日の礼拝で、教会学校の礼拝で、み言葉を聞くとき、心に覚えるとき、「ああ、イエス様！」って、お会いできるのです。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様が私に話そうと待っていてくださる礼拝に毎週励んで、しっかりお会いできますように。

10月9日(土)

聖書

ヨハネ16・22～24

聖句

求めなさい、そうすれば、与えられるであらう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであらう。 24節

「ねえ、お父さん」、「ねえ、お母さん」で、あなたはよくおねだりしますか？ おねだりしたものがもらえたら、「ヤッター！」って、大喜びするでしょう？ 「わたしの名前によって、天の父なる神様にお祈りするの、同じですよ」とイエス様が言われます。「お祈りって、本当に楽しいし、わくわくするし、いつ神様からの答えがくるか楽しみだし、きつと与えられるから、求めなさい」と言ってくださっています。喜びが満ちあふれるのですから、祈りたいね。

いのちの祈り 天のお父様、私の心の中から、泉のようにお祈りもわき出ますように、そして、喜びが満ちあふれますように。

10月8日(金)

聖書

ヨハネ15・7～11

聖句

わたしの愛のうちにいなさい。 9節

「大海のように広い主の愛、山より高い主の愛は、私のような者を愛して神の子にしてくださいます」（ホーリネスこどもさんびか53番）というさんびを歌ったことがありますか？ イエス様の愛について、ひとり静かに考えてみることは、とてもいいことです。父なる神様が子なるイエス様を愛されたように、イエス様も私たちを愛してくださっているということです。そのイエス様の愛のうちにいつもいると、イエス様の喜びがまた私たちのうちにも宿り、しかも満ちあふれてくるのです。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様を信じる喜びはまさに大海のようです。どんなことがあっても尽きてしまうことはありません。

# 10月10日(日)

聖書

ルカ19・1～10

聖句

人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである。 10節

かわいいペットがいなくなって、必死で捜したことがあるでしょうか。「おーい！帰っておいでーフラフラしてたら死んじゃうよ」って。見つかった時はうれしかったでしょう。イエス様も、神様のもとから離れて、自分勝手に生きて、そのままと永遠に滅びてしまいう私たちを見つけて出して、救うために来てくださいました。ここには、ひどいやり方で税金のおかしらになったけど、とっても淋しかった、失われていたザアカイの救いの物語があります。

いのちの祈り 天のお父様、あなたのもとから離れ迷い出た失われている私たちを、尋ね出して救ってください。イエス様を感謝します。



聖書

ルカ19・1～10

テーマ

キリストとの出会い

暗唱聖句

人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである。

ルカ19・10

目標

キリストと出会い、キリストを心にお迎えする。

カリキュラム番号 28

# 10月12日(火)

聖書

ルカ19・3～4

聖句

それでイエスを見るために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。4節

みんなからのけ者のようにされていたザアカイには、もう一つ、くやしい気持ちがありました。「背が低かった」のです。つまり、人々からは「チビ」と言われて育ってきたのです。それで、「よし、今に見ている」と、税金のかしらにまでなり、がっぽりお金をためていったのでした。そのザアカイが、「イエス様を見たい！」と思ったのです。でも、人々が邪魔でとても見えません。ついにピンと来て、いちじく桑の木に登りました。しっかりと見ようとしてね。

いのちの祈り 天のお父様、ザアカイの熱心な思いが伝わってきます。私も熱心に教会に通ってイエス様と会いしたいと思います。

# 10月11日(月)

聖書

ルカ19・1～2

聖句

この人は取税人のかしらで、金持であった。2節

あなたの名前には、どんな意味がこめられていますか？「ザアカイ」という名前は、日本流に言うところの「正くん」とか、「清くん」という、とても良い名前です。ところが、そんな名前にはふさわしくない生活をしていました。取税人とはローマの手先で、同じユダヤ人から税金を取るの、嫌われ者でした。どうして金持ちになったか、わかるでしょう。そう、余分なお金を取りたてていたのです。正しくも清くもない、心ざびしい人だったのですね。

いのちの祈り 天のお父様、よい地位と、たくさんの財産が幸せの条件ではないということが、ザアカイを見てよくわかります。

# 10月14日(木)

聖書

ルカ19・8

聖句

主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。 8節

だーれも相手にしてくれないのに、イエス様だけが、こんな私に声をかけ、家にまで来てくださったと思うと、ザアカイの心に光がさしてきました。自分がやってきたいろんな悪いことが見えてきたのです。「ああ、私はまちがっていた。私もイエス様のように、きよく、正しく、やさしくなりたい」と、ザアカイは心から悔い改めて、180度方向転換しました。そして罪のつぐないをするとイエス様に言いました。財産の半分は貧民にほどこし、不正をして得た分は四倍にして返しますと。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様だけが、人の心に働いて、心を変えてくださるお方です。イエス様に近く生活できますように。

# 10月13日(水)

聖書

ルカ19・5～7

聖句

ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから。 5節

「あつ、イエス様だー」と、じっと見つめていると、ザアカイのいるすぐ下でピタッと止まれ、上を見あげて、言われます。「ザアカイよ」「エエーッ!? 私のこと?」「自分の名前をちゃんと呼ばれて、(こんなこと全然なかったかも)ザアカイは心臓がドキドキ! 次の瞬間、「急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから」。「ヒエーッ、今晚! うちに?」ザアカイはころがり落ちるように木からおりてイエス様を迎えました。

いのちの祈り 天のお父様、ザアカイの破裂しそうな心臓と、喜びでいっぱい姿が目に見えます。私も喜んでイエス様を迎えます。

# 10月16日(土)

聖書

マタイ9・9～13

聖句

わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである。13節

ここに、もう一人の取税人がいます。マタイという人です。イエス様は、この人にも、「わたしに従ってきなさい」と声をかけられました。すると彼はすぐに立ちあがって、イエス様に従ったのでした。食事の時には、多くの取税人や罪人たちがきて、イエス様や弟子たちと共に席に着きます。パリサイ人たちが「どうしてこんな人たちと食事をするのか?」と言うのを聞いて、「わたしは罪人を招くためにきたのだ」と言われます。何と感謝なことでしょう。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様は本当に、天からの「福音」、グッド・ニュースです。すべての人がイエス様と出会えますように。

# 10月15日(金)

聖書

ルカ19・9～10

聖句

きょう、救がこの家に来た。この人もアブラハムの子なのだから。 9節

「きょう、今! 救いがこの家に来た」と、イエス様は心から喜ばれました。ザアカイは、イエス様を喜んで自分の家に迎え入れたと共に、心の内にもしっかりと迎えしました。きょう、あなたの心の中にもイエス様をお迎えしましょう。きょう、あなたのお家にもイエス様をお迎えしましょう。「人の子」とはイエス様のことです。このようにして、イエス様は、「神様の前から失われている人を尋ね出して救うために来ました」と言われます。

いのちの祈り 天のお父様、あなたを知らず、失われていた私たちを尋ね出して救うために、イエス様をつかわしてください感謝します。



# 10月17日(日)

聖書

出エジプト14・10～25

聖句

かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救を見なさい。 13節

「信じられないあゝ。海が分かれて、道ができるなんて！」と言いたくなるような、でも本当のできごと！イスラエルの民が430年もの長い間、エジプトで強いられていた奴隷生活、苦しい苦しい生活からの脱出（エクソダス）！のお話です。男の人だけでも60万人、女の人や子どもたちも数えたら200万人は超えたでしょう。脱出できたと思ったら、後からパロの軍隊が迫ってきます。前は紅海で、とうとうはさみ打ち!?でも、モーセによって神様は、大いなる脱出の道を開かれたのです！

いのちの祈り 天のお父様、「もうダメ！」と思えるような中でも、あなたは力ある腕を働かせて道を開いてくださることを感謝します。



聖書

出エジプト14・10～25

テーマ

困難における救い

暗唱聖句

かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救を見なさい。 出エジプト14・13

目録

困難の中でも道を開いてくださる神を信じる。

カリキュラム番号 29

# 10月19日(火)

聖書

出エジプト14・1～4

聖句

エジプトびとにわたしが主であること知らせるであろう。 4節

「脱出できた！」と喜ぶイスラエルの民の前に、これから起こるべきことも、神様はみんなご存知で、モーセに言われます。「パロはあなたがたを追いかけて来る」と。大きな喜びのあとに、またまた困ったことや、あわてしまうことがあるのだということを、覚えておくことはいいことです。でもそんなことも神様はちゃんと知っていてくださって、もっと神様の力と栄光があらわれるようにしてくださるのだということがわかると、ますます神様を信じたいですね。

いのちの祈り 天のお父様、エジプトびとに、つまりあなたを信じない人々に、あなたこそ主であることを知らせてください。

# 10月18日(月)

聖書

出エジプト12・21～32

聖句

これは主の過越の犠牲である。 27節

「脱出」と言っても、大勢の人々が「それっ！」と逃げ出したわけではありません。その前に、神様がしてくださった、とてもおごそかなできごとがありました。小羊の血を、家の入口の二つの柱と上側にぬったイスラエルの家の中は守られました。しかし、そうでないエジプトの家では長子、つまり初めに産れた子どもが、みんな死にました。さすがのパロ王もモーセ、アロン、イスラエルの民を出て行かせたのです。記念すべき救い！イエス様の十字架による救いと同じです。

いのちの祈り 天のお父様、罪の奴隷だった私たちも、イエス様の十字架の血によって罪ゆるされ、救われることを感謝します。

# 10月21日(木)

聖書

出エジプト14・10～12

聖句

なぜわたしたちをエジプトから導き出して、  
こんなにするのですか。 11節

イスラエルの人々の喜びは、一瞬のうちに  
恐れに変わってしまいました。目を上げて見  
ると、恐ろしいばかりのエジプトの軍隊とパ  
ロの姿が迫ってきているではありませんか。  
しかも、前は、と言えば海です。顔も心もひ  
きつてしまつて叫び出し、モーセに文句を  
言います。「荒野で死なせる気なのか、エジ  
プトにと仕える方がよっぽどよかったのに」  
って。あなたがもしそこにいたとしたら、や  
っぱり同じように恐れでいっぱいになつて叫  
んだかしら？

いのちの祈り

天のお父様、困ったできごとの中で自分だった  
ら、いったいどうするだろうと考えてみることは  
大切だと思います。

# 10月20日(水)

聖書

出エジプト14・5～9

聖句

主がエジプトの王パロの心をかたくな  
にされたので、彼はイスラエルの人々  
のあとを追った。 8節

エジプトのパロ王は、この世の支配者、  
悪魔のようです。エジプトの軍隊はこの世  
の中の悪魔の力のようなのです。神様がモーセに  
言われたように、パロは「しまった、あの  
奴隷たちを去らせてしまった」と、またし  
ても考えを変えたのです。そして、エジ  
プト中の戦車やライダーたちをひきつれて、  
イスラエルの民を必死で追いかけてきて、  
ついに追いついたのです。私たちがこの悪  
魔の支配する世の中で、神様を信じてい  
うとすれば困難に囲まれますね。

いのちの祈り

天のお父様、この世と悪魔の力がどんなにしつ  
こく迫ってくるものであるのかよくわかります。  
祈っていきます。

# 10月23日(土)

聖書

出エジプト14・26～31

聖句

このように、主はこの日イスラエルを  
エジプトびとの手から救われた。30節

追ってきたエジプトびとの戦車が、神  
様によって進むのに重くされ車がぎしぎし音  
をたてた時、エジプトびとは恐れつつ悟りまし  
た。「主が彼らのために我々と戦う、逃げよう」  
と。しかし、気づくのが遅すぎました。モーセは、  
再び主の命令で、手をさし伸べると、「ドドドー  
ン」と、夜明けになって海はもとにもどしま  
した。パロもすべての軍隊も戦車も飲み込ま  
れ、一人も残らず全滅。イスラエルの「完全勝  
利」それは全く、主のみわざだったのです。

いのちの祈り

天のお父様、どんな困難の中にも紅海を二つに  
分けられたあなたが道を開いてくださると信じて  
祈っていきます。

# 10月22日(金)

聖書

出エジプト14・13～25

聖句

主があなたがたのために戦われるから、  
あなたがたは黙していなさい。 14節

神様に立てられた預言者モーセの出番です。  
さすがにモーセだけは他の民とは全然ちがっ  
た心を持っていました。「恐れてはならない、  
主が救ってください、主が戦ってくださいから  
黙って信頼していなさい」と。そのモーセに主  
が命じられたように、モーセはつえを持った  
手を海の上にさし伸べました。主が夜中、強  
い東風を吹かせて、何と海は分かれて道ができ、  
水のかきの中のかわいた道を人々はついに渡  
りました。エジプト人も追ってきましたが!?

いのちの祈り

天のお父様、あなたのされることは何と大胆で、  
しかも細かいのでしょうか。まことに信頼されるべ  
きお方です。

10月24日(日)

聖書

ヨシュア 1・1～9

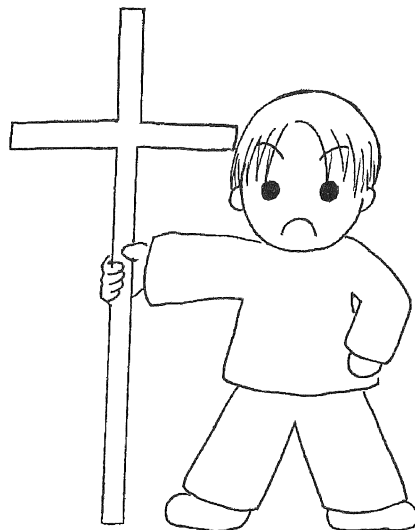
聖句

強く、また雄々しくあれ。

9節

「困ったな、大丈夫かな、やっていけるのかな」と心をドキドキさせ、心配そうな顔をしているのはヨシュアさんです。なぜって、とても頼りにしていたモーセさんが神様のもとに行ってしまう、そのあとリーダーをとめるのがヨシュアさんということになったからです。恐れや不安な思いをもつヨシュアさんに、神様が励ましの声をかけられます。「強く、また雄々しくあれ」って。モーセと共にいた神であるわたしがあなたと共にいるよ!

いのちの祈り 天のお父様、おそれや不安が心にある時、きょうのみ言葉を思い出し、モーセと共におられたあなたに信頼します。



聖書

ヨシュア 1・1～9

テーマ

信仰による前進

暗唱聖句

強く、また雄々しくあれ。

ヨシュア 1・9

目

目標

困難の中でも、伴ってくださる神を覚え、勇気をもって前進する。

カリキュラム番号 30

10月26日(火)

聖書

ヨシュア 1・1～3

聖句

主のしもべモーセが死んだ後、主はモーセの従者、ヌンの子ヨシュアに言われた、1節

これまでとても力強く、ヨシュアや民を引っ張ってきてくれていたモーセが死んでしまいました。これまで、はつきりと神様のおっしゃることを伝えてくれていたモーセが、目の前からいなくなってしまったのです。「一体、どうなるんだろう?」と思っていると、神様が、直接ヨシュアに、お話しされるではありませんか!「あなたと民はヨルダンを渡って、約束の地を取りなさい」と。小さいあなたにだって、神様は直接お話ししてくださることがあるのですよ。

いのちの祈り 天のお父様、あなたは生きておられて、私にも声をかけてくださる神様であることを知って、感謝します。

10月25日(月)

聖書

出エジプト 24・12～18

聖句

そこでモーセは従者ヨシュアと共に立ちあがり、モーセは神の山に登った。13節

金魚のふんのように、ひっきりもちのようにな、まるでその人の影のように、いつでもどこでも一緒にいて、従っている人のことを「従者」、つまり、「おつききの者」と言うのです。ヨシュアは、モーセの従者だったので、ヨシュアは、モーセの行くところに共に行き、モーセの言うことをしっかりと聞き、モーセの命令にはしっかりと従いました。モーセを通してなされた、生きておられる神様のみわざもはつきりとすぐそばで見えてきたのです。すごいですね。

いのちの祈り 天のお父様、あなたのお働きが続けられるように、しっかりと従者ヨシュアを備えられたことを知りました。

# 10月28日(木)

聖書

ヨシュア 1・7～9

聖句

モーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲ってはならない。 7節

「強く、また雄々しく」とは、口先だけの  
カラ元気ではありません。本当にそう  
できるには、秘密があります。それは、こ  
こでは律法つまり、今の私たちには「み言葉」  
です。ヨシュアと民たちが強く、また雄々  
しくあつて勝利を得るひけつは、モーセを  
通して与えられた律法を守って行うとい  
うことでした。その道から右にも左にも  
曲がらないということでした。今、私た  
ちにも聖書のみ言葉が与えられています。  
み言葉のとおり信じ従ひ行いましょう。

いのちの祈り  
天のお父様、勇気と力のもと、いつでもみ言葉  
です。心の中にたくさん貯えて、強く雄々しく歩  
ませてください。

# 10月27日(水)

聖書

ヨシュア 1・4～6

聖句

わたしは、モーセと共にいたように、あなた  
と共にあるであらう。 5節

これはヨシュアにとつては、何という力強  
い約束だったことでしょう！ 勇気百倍、  
ましがいなしでした。ヨシュアはいつもモー  
セのそばにいてしっかりと見てきたからです。  
モーセといつも共にいられた神様を。いつも  
共にいてみわざをなさり、栄光を現された神  
様を。紅海をまっ二つに分けた神様のみわざ！  
岩から水を流れ出させたみわざ！ さおの上  
のへびのみわざ！ あのこと、このことをな  
さった同じ神様が、共にいてくださるとの約束  
なのですから。

いのちの祈り  
天のお父様、こんなにも力強いみわざをなさつ  
たあなたが、きょう私も共にいてくださりあり  
がとうございます。

# 10月30日(土)

聖書

ヨシュア 3・14～17

聖句

そしてついに民はみなヨルダンを渡り終  
った。 17節

大雨の時とか、ドードーツと岸を越えそう  
なくらい水が流れているのを見たことがあり  
ますか？ そばに行く足がすくわれそうでこ  
わいほどです。ヨルダン川に近づき、祭司た  
ちの足が水ぎわにひたつたかと思うと、上  
の方から流れくだる水がとどまり、全くせきと  
められて、垣のようになったのです！ 神様の  
箱をかつぐ祭司たちは、民がみんな渡り切る  
まで、ヨルダン川のかわいた土の中に立って  
いました。そしてついに渡りきれました！ ヨ  
シュアさん、ごころうさまでした！

いのちの祈り  
天のお父様、あなたの励ましで、「強く雄々し  
く」つとめを果たしたヨシュアさんに見ならって  
いきたいです。

# 10月29日(金)

聖書

ヨシュア 3・1～13

聖句

あなたがたはここに近づいて、あなたが  
たの神、主の言葉を聞きなさい。 9節

「昔、モーセと民はエジプトからの脱出  
の時、モーセが神の杖を海にのぼして、神  
様が強い風を吹かせ、水が分かれてできた  
道を渡ったつけ。今度渡るヨルダン川はも  
っと狭いし、同じようにして渡るのかな？」  
とヨシュアは考えたでしょうか。 いいえ。  
今度の神様のみわざは前の時とは全然ちが  
いました。「主の言葉」は告げます。「神の  
箱をかく祭司たちの足の裏がヨルダンの水  
の中に踏みとどまるように」と。神様が  
おっしゃるとおりするのがかぎです。

いのちの祈り  
天のお父様、いつも柔かい心をもって、あなた  
がおっしゃるとおりにして、あなたのみわざを見  
ることができるよう。

# 10月31日(日)

聖書

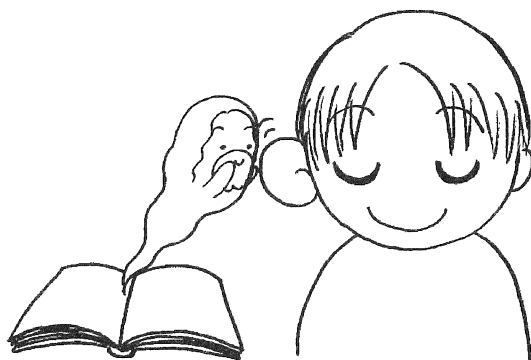
サムエル上 3・1～18

聖句

しもべは聞きます。主よ、お話しください。 9節

「サムエルよ、サムエルよ。」「はい、エリ先生、わたしはここにおります。目がかすんで見えないほど年取ったエリ先生が自分の部屋で寝ていた時、少年サムエルがやって来て、起こされました。」「いや、わたしは呼ばないよ、帰って寝なさい。二度目、三度目と、同じようにサムエルがやってきました。エリ先生はやつと、神様が彼を呼んでいるのだとわかり、「もし呼ばれたら、『しもべは聞きます。主よ、お話しください』と言いなさい」と教え、サムエルはそうしました。」

いのちの祈り 天のお父様、もし私もあなたから呼ばれたら、同じように答えます。あなたの御声がよく聞こえますように。



聖書

サムエル上 3・1～18

テーマ

御声を聴く

暗唱聖句

しもべは聞きます。主よ、お話しください。 サムエル上 3・9

目標

語ってくださる神の御声に耳を傾ける者となる。

カリキュラム番号 31

# 11月2日(火)

聖書

サムエル上 3・1～2

聖句

そのころ、主の言葉はまれで、黙示も常ではなかった。 1節

ハンナお母さんがサムエルを与えられ、神様におさげしたそのころのことです。主の言葉を聞く人はとても少なく、主の言葉を語ってくれる人がほとんどいなかったのです。つまり、その時代はとても暗い時代でした。神様が話したいと思っても、安心してお話しできる人がみつからなかったということです。目がかすんでも何も見えなくなっていました。心の目も同じで、神様が示そうとしても見えない有様だったのです。

いのちの祈り 天のお父様、今の時代も、とても暗いです。心の目と耳を開いて、あなたを見、あなたに聞く子どもにしてください。

# 11月1日(月)

聖書

サムエル上 2・18～21

聖句

わらべサムエルは主の前で育った。21節

ハンナお母さんの熱い祈りで、この世に誕生してきたサムエルは、お母さんが神様に約束したとおり、乳離れしてから神様にささげられて、神殿で生活したのです。すくなく年が経った祭司エリ先生と、とてもひどい罪を犯していた二人の息子も一緒に育ちました。でもサムエルは、神様の前で大きくなっていました。神様の前で育っていったのです。そこは一番よい所でした。一番立派に育てていただけの所です。私たちも毎日、神様の前で大きくなりましょう。

いのちの祈り 天のお父様、いつも目の前にあなたがおられるように過ごしていけますように。やがて御声が聞けますように。

# 11月4日(木)

聖書

サムエル上 3・6～7

聖句

サムエルはまだ主を知らず、主の言葉がまだ彼に現されなかった。 7節

「サムエルよ、サムエルよ」。神様はもう一度、二度目にサムエルの名を呼ばれました。サムエルは、「あれ、今度こそはエリ先生が呼ばれたのかな」と、エリ先生の所へ行行って言いしました。「あなたが呼びになりました。わたしはここにいます」。わたしは呼ばない。もう一度寝なさい。「おかしいなあ、たしかに名前を呼ばれたんだけど、ソラ耳だったのかなあ？」実は、呼んだのは神様だったのですが、サムエルはまだ直接主を知らなかったのです。

いのちの祈り 天のお父様、忍耐強くサムエルを呼ばれたあなたの優しさが伝わってきます。私にも御声を聞かせてください。

# 11月3日(水)

聖書

サムエル上 3・3～5

聖句

あなたがお呼びになりました。わたしは、ここにいます。 5節

大雨の音でも全然目がさめない子もいるでしょう。ピカッと光って、ゴロゴロ大きな音が鳴りひびいても、バクスイしている子もいるかもね。朝、お母さんから大声で名前を呼ばれても、平気で寝ている子だっていますか？この時は、夜の何時ごろだったのでしょうか。「サムエルよ、サムエルよ」と呼ばれて、サムエルは「あ、エリ先生がぼくを呼んでる」と走って行ったのです。ところがちがいました。おかしいなあ、聞きがちがったのかなあ？

いのちの祈り 天のお父様、エリ先生の所へ走って行ったサムエルの忠実な姿が、とても心にひびきます。ならわせてください。

# 11月6日(土)

聖書

サムエル上 3・15～21

聖句

主はシロで、主の言葉によって、サムエルに自らを現された。 21節

サムエルはつづいて、主の前で育っていきましました。神様がいつもサムエルと共にいられて、サムエルの話す言葉はいつもそのとおりになっていったので、イスラエルのすべての人が、サムエルが主の預言者と定められたのだとわかりました。神様はどのようにしてサムエルにご自分を現されたのか、きょうのみ言葉でわかります。「主の言葉によって」ですね。私たちにも「み言葉」によって、神様はご自分を現わしてください。主とお会いしましょう。

いのちの祈り 天のお父様、あなたのめいしを、み言葉によって聞き、み言葉によって、現れてくださるあなたをもっと知りたいです。

# 11月5日(金)

聖書

サムエル上 3・8～14

聖句

行って寝なさい。もしあなたを呼ばれたら、「しもべは聞きます。主よ、お話しください」と言いなさい。 9節

三度目に呼ばれたサムエルは、起きてエリのもとへ行きました。エリは、やっと気がつきました。「そうか、主がこの幼いサムエルを呼んでおられるのか」と。今度呼ばれたら、「しもべは聞きます。主よ、お話しください」と言えいいのだと知って、サムエルはまた寝ました。ついに四度目！サムエルは主の御声を聞きました。エリ家への、とてもきびしいお言葉でした。神様は老祭司エリではなく、幼いサムエルを選んで大切なみ言葉を語られたのでした。

いのちの祈り 天のお父様、幼く小さい私たちさえも、大切なあなたのお仕事に用いようとしておられることを知り感謝します。

11月7日(日)

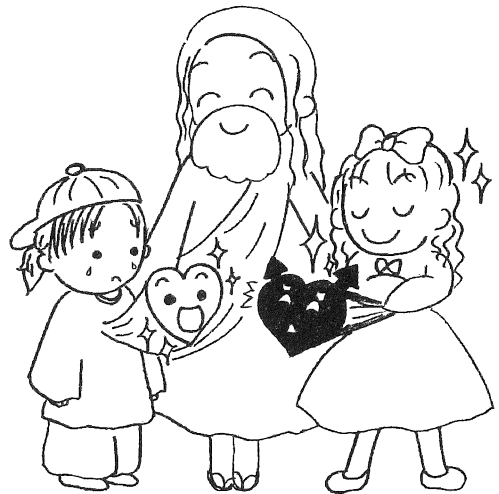
聖書  
聖句

サムエル上 16・6～13

人は外の顔かたちを見、主は心を見る。  
7節

ミス・ユニバース・コンテストは、全く外の顔かたちで決まりますね！ところが、イスラエルの第二代の王様選びは、神様の前でコンテストですから、全くちがいます。「主は心を見る」からです。エッサイの長男エリアブが預言者サムエルの前に立った時、「お！この人こそ主が油注がれる人にちがいない」と思いました。しかし、主は、「顔かたちや身のたけで決まるのではない、その人ではない」と言われました。主の前には心こそ大切なのです。

いのちの祈り  
天のお父様、人の心を見られるあなたの前に生きることが出来ますように。あなたに喜ばれる心の持ち主にしてください。



聖書  
サムエル上 16・6～13

テーマ  
心を見られる神

暗唱聖句  
人は外の顔かたちを見、主は心を見る。  
サムエル上 16・7

目標  
心を見ておられる神の前に生きる。

カリキュラム番号 32

11月9日(火)

聖書  
聖句

サムエル上 16・11

まだ末の子が残っていますが羊を飼っています。  
11節

サムエルはエッサイにたずねます。「あなたのむすこたちはこれで全部ですか？」「あ、まだあと一人、末の子がいて、彼は羊を飼っています。」「まさか、彼は一番末っ子だしね。せいぜい羊を飼うくらいがふさわしいと思うよ。羊を飼ってるから、まともな服装はしてないし、それに何となく、臭いがしていると思うし…」などと、心の中でエッサイも七人の兄たちも考えていたかもしれません。「彼を連れてきなさい」とサムエルは言います。

いのちの祈り  
天のお父様、人は本当に外側しか見えないのですね。人の心と、あなたの心との大きなちがいがよくわかります。

11月8日(月)

聖書  
聖句

サムエル上 16・8～10

サムエルはエッサイに言った、主が選ばれたのはこの人たちではない。  
10節

長男エリアブではないとわかって、父エッサイは次男アビナダブを呼んで、サムエルの前を通らせました。「兄さん、残念だったね。きつと僕だよ」と歩くアビナダブに、「主が選ばれたのはこの人でもない」とのサムエルの言葉。三人目のシャンマにも、「主が選ばれたのはこの人でもない」と言うサムエル。七人が七人とも「この人ではない」だったのです。えーっ！では一体どの人がエッサイの家から選ばれるの？みんな、心がダメだったのですね。

いのちの祈り  
天のお父様、父エッサイがサムエルの前を通らせた七人の息子たちはみんなダメでした。エッサイの目も狂っていました。

# 11月11日(木)

聖書

詩篇139・1～12

聖句

あなたはわがすわるをも、立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえられます。 2節

心を見ておられる神様のことを歌ったダビデの詩篇を味わうことにしましょう。「ぼくのことを一番わかっているのは、ぼくに決まっている」、「私のことを一番よく知っているのはもちろん、私だわ」と言いたいのですか？ 実は、そうではないのです。自分の心の奥のひださえも探って、知り尽くしていただくのが神様です。「ウー、私の心の中にこんないやな思いとかあったの!?」と驚くかもしれませんが、神様はご存知。思いさえもご存知なのです。

いのちの祈り 天のお父様、あなたの目の前には何もかもみんな知られていて、ごまかすなんてとてもできないとわかります。

# 11月10日(水)

聖書

サムエル上16・12～13

聖句

主は言われた、「立てこれに油をそそげ。これがその人である。」 12節

「まっさか」「そんな」「えーっ?」「この末っ子かい?」「羊飼いの?」「マジ?」「王にでもなるつもり?」「エッサイも七人の兄たちもあきれて、あつけにとられてしまったかもしれない。しかし、神様のいるところはちがいが、神様の目に狂いはありません。「血色のよい、目のきれいな、姿の美しい人」ダビデの心は、羊への優しい心と、神様へのきよい心で澄んでいたのでした。サムエルは、八番目のダビデに、油の角をとって、油をそそいだのでした。

いのちの祈り 天のお父様、心を見られるあなたの前に、ダビデのように、愛情深く、清い心をもって歩めるようにお守りください。

# 11月13日(土)

聖書

詩篇139・23～24

聖句

神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを知ってください。 23節

心を見られる神様に造られた私たち人間の、一番の幸せは何だと思えますか？ 大きな快適なお家？ 何でも欲しいものが買えるたくさんのお金？ ノーですよ。それは、神様にのぞかれても恥ずかしくない清い心でしょう。だからダビデは祈るのです。「神様、あなたのサーチライトを当てて、私の心を探ってください。あなたに喜ばれないものを捨ててください。そして永遠の命への道をまちがいなく歩ませてください」と。私たちも、そのように祈りましょう。

いのちの祈り 天のお父様、み言葉のサーチライトで私の心をいつも照らして下さって、清い心の幸せを保たせてください。

# 11月12日(金)

聖書

詩篇139・13～18

聖句

あなたはわが内臓をつくり、わが母の胎内でわたしを組み立てられました。 13節

心を見られるのもすごいですが、ダビデはまた、私たちの身体をつくられ、内臓をはじめ、骨や筋や肉や脂肪や血管をつくられ、知りつくしていただく神様にも思いを向けて、心の底から感心しています。私たちが、同感ですよ。私は、自分の身体なのに、自分の心臓も肺も肝臓とも、まだ見たことがありません！ 血管の中を、どんなふうに血が流れているのかも、見たことがないです！ 本当に神様は、最もよく私を知っておられます(14)。

いのちの祈り 天のお父様、あなたがこんなにすみずみまで私のことを知っていて下さることがわかり、なぜかホッとします。



# 11月14日(日)

聖書

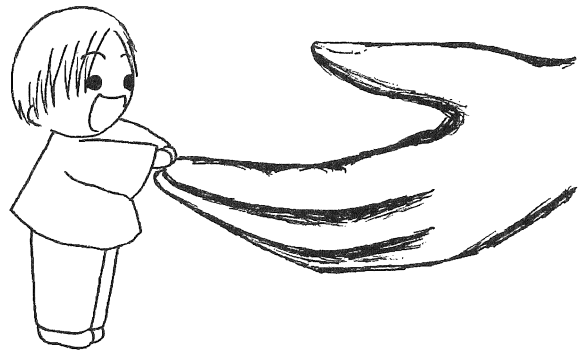
列王上 17・1～7

聖句

わたしの仕えているイスラエルの神、  
主は生きておられます。 1 節

天気予報って、たいがい当たるけどたまにはずれたりします。ここに、預言者エリヤがいきなり登場して、「私が仕える神は生きておられて、私の言葉のない間は、数年雨も露もありませんよ」とアハブ王に言います。数年？何と三年六か月、一滴のおしめりもなかったのです。予報のとおりに！エリヤは神様に養われました。ケリテ川のほとりで、川の水を飲み、驚いたことに、からすが朝にタにパンと肉を運んでくれたのです。神様の命令によって。

いのちの祈り 天のお父様、エリヤをからすによって養われたあなたは、今も生きて働いていてくださいますから感謝します。



聖書

列王上 17・1～7

テーマ

生きて働かれる神

暗唱聖句

わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられます。  
列王上 17・1

目標

生きて働かれる神を信じる。

カリキュラム番号 33

# 11月16日(火)

聖書

列王上 17・8～16

聖句

主がエリヤによって言われた言葉のように、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった。 16 節

ちよつと雨が降らないだけでも、水不足で給水制限とかあって困ります。一年も二年も降らないと一体どんなことになるでしょう!? ケリテ川の水もかれてしまいました。エリヤは主の言葉によって、偶像の町シドンのザレパテの、しかも、やもめ女の所に遣わされます。よりによって最後のパンを食べて子どもと死のうとしていたのです！ところが生きておられる主の命令どおりにすると、「かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった」のでした。ワンダフル！

いのちの祈り 天のお父様、エリヤや、やもめ女と息子を養い続けられたあなたは、今も生きて、この約束を守ってくださり感謝です。

# 11月15日(月)

聖書

列王上 16・29～34

聖句

オムリの子アハブは彼よりも先にいたすべての者にまさって、主の目の前に悪を行った。 30 節

アハブ王というのは、イスラエル最悪の王様でした。偶像を拝むイゼベルという奥さんと結婚して、自分もバアルという偶像を拝むようになってしまいました(だれと結婚するかは、とても大事なことです)。バアルというのは、雨や霧を注いで農業を盛んにする男性の神です。エリヤはこの神に挑戦したのです。アシラ像は、女神の偶像です。こうして国中に偶像の宮や祭壇を作って、まことの神様を怒らせました。神様はエリヤを遣わすことにしたのでした。

いのちの祈り 天のお父様、あなたが最もお嫌いになるのは偶像です。私もあなたより大事にしている偶像はないかチェックします。

# 11月18日(木)

聖書

列王上 18・17~29

聖句

そして火をもって答える神を神としまし  
しょう。 24節

三年以上もの間、かんばつで国中カラカラ。アハブに会って、エリヤはカルメル山での対決をと、バアル、アシラの預言者を集めさせます。八百五十人対エリヤ一人です。たきぎの上に一頭の牛を切り裂いてのせ、「それぞれの神の名を呼びましよう。火をつけていないその牛に、天からの火を降らす神を神としましよ」と言いしました。まず、バアルの預言者たちからです。「バアルよ、答えてください」と。しかし応答なし。踊ったり血を流したりしても答えなし。バアルは眠っているのか？

いの祈り 天のお父様、バアルからは何の答えもありませんでした。死んだ人がつくりあげた偶像だとわかりました。

# 11月17日(水)

聖書

列王上 17・17~24

聖句

主はエリヤの声を聞きいれられたので、その子供の魂はもとに帰って、彼は生きかえった。 22節

あなたも病気になることがあてしめう。死ぬかもしれないと思うような重い病気だったでしようか。このやもめ女の息子は、本当に重い病気です。母親の手から子どもを取り、エリヤは屋上の部屋の自分のベッドに寝かせて神様に叫び求めました。「子どもの魂をもとに帰らせてください！」主はエリヤの叫びを聞きいれてくださり、子どもは生きかえりました！何と力あるエリヤの祈りでしょう！祈りに答えてくださる主は生きておられます！

いの祈り 天のお父様、エリヤは人間であるのに、その祈りに答えて、死人さえもよみがえらせたあなたの御力をたたえます。

# 11月20日(土)

聖書

列王上 18・41~46

聖句

七度目にしもべは言った、「海から人の手ほどの小さな雲が起っています」。 44節

「大雨の音がするから、上って行って、食い飲みしなさい」とエリヤに言われて、さすがにアハブは言われたとおりにしました。しかしエリヤはカルメル山頂に登り、祈りに入りました。地に伏して顔をひざの間に隠し、祈りの姿勢です。忍耐強い祈り、見るまであきらめない祈りでした。しもべは海の見える所に上って見ます、何回も行ったり来たり…ついに七度目に「人の手ほどの小さな雲」が見えたと思うと、まもなく大雨となりました！

いの祈り 天のお父様、私たちと同じ人間のエリヤの祈りに答えられたあなたが、今も私の祈りに答えてくださると信じます。

# 11月19日(金)

聖書

列王上 18・30~40

聖句

民は皆見て、ひれ伏して言った、「主が神である。主が神である」。 39節

びつしよりぬれた紙にどんなにマッチで火をつけようとしてもジュンと火が消えてしまふでしよう？とこころがです。さあ、エリヤの番になりました。ヤコブの子らの部族の数の十二個の石で祭壇を築き、その周囲にみぞを作り、たきぎと牛を切り裂いてのせ、かめ十二杯分の水をザアザアかけました。夕の供え物の時間になって、エリヤの祈り、「主よ、あなたが神であると知らせてください」。その時です、主の火が降り、すべてを焼き尽くし、民がひれ伏し叫びました。

いの祈り 天のお父様、まことに、「火をもって答えられたあなたこそが神です」と、私も心から一緒に叫べて感謝です。

# 11月21日(日)

聖書

ダニエル 6・10～24

聖句

彼が自分の神を頼みとしていたからである。 23節

動物園やサファリなんかで、遠くから、「ガオーッ」ってほえるライオンを見るのは平気だけど、そのライオンが何匹も目の前にやってきたら、恐くて、気絶してしまいます。そんなライオンの穴に入られたダニエルのお話です。バビロンの総監や総督たちはダニエルのことをねたんで、わなにかけて、ししの穴の中に投げ入れたのです。王は一晚中、全然眠れず、朝になって穴に近づいて声をかけると、元気なダニエルの声！本当に彼が頼みとしていた神様が救ったのでした。

いのちの祈り 天のお父様、あなたを頼りとする者のためにはライオンの口さえ閉ざされるとは！本気であなたに信頼していきます。



聖書

ダニエル 6・10～24

テーマ

神を頼みとして

暗唱聖句

彼が自分の神を頼みとしていたからである。 ダニエル 6・23

目標

神に従い、神を信頼する者を神は守ってくださると信じる。

カリキュラム番号 34

# 11月23日(火)

聖書

ダニエル 6・6～9

聖句

そこでダリヨス王は、その禁令の文書に署名した。 9節

おだてられたり、ちょっと持ちあげられたり、ほめられたりするとあぶないから要注意！ここのダリヨス王がそうでした。まんまと総監や総督たちのわなにひっかかってしまったのです。「今から三十日の間は、ただ、王様、あなたにのみ願ひ事をさせ、もしあなたを置いて、神または人にこれをなす者があれば、すべてその者を、ししの穴に投げ入れるといふ、このことに同意して、禁令の文書に署名してください」と。王様は少ししい気持で署名してしまいました。

いのちの祈り 天のお父様、自分がほめられたりする時、心にすきができ、悪魔のわなに陥りやすくなるので注意します。

# 11月22日(月)

聖書

ダニエル 6・1～5

聖句

彼が忠信な人であって、その身になんのあやまちも、とがも見いだされなかったからである。 4節

勉強や運動がよくできたり、先生にほめられているお友だちを見たりしたら、あなたは一緒に喜んであげられますか？それともあまりいい気がなくてねたむ心になりますか？ダニエルはとても優秀な人で、王様のお気に入りとなり、全国を治めるような所にまで引き立てられたのです。総監や総督たちは何とか訴える口実を探そうとしても見つかりませんでした。こうなるとダニエルの神の律法に関して見つける他ないと考えます。ねたみというのはとても恐ろしいものです。

いのちの祈り 天のお父様、ねたまれることはあっても、決してねたむ者になることがないように、私の心をお守りください。

# 11月25日(木)

聖書

ダニエル 6・14～18

聖句

そこで王は命令を下したので、ダニエルは引き出されて、ししの穴に投げ入れられた。 16節

「な、なんと、あのダニエルがわしの署名した文書の禁令をやぶってしまったというのか！一日に三度ずつ、祈りをささげていると…」。ダリヨス王はとても大きな悩みと悲しみをかかえてしまい、何とかダニエルを救いたいと、夕方日が沈むころまであれこれ考えました。しかし、その努力もむだになってしまい、ダニエルを訴える人々はまた王のもとに集まってきて、もはや禁令は変えられませんが迫ります。ついに王の命令により、ダニエルはししの穴に――

いの祈り

天のお父様、「あなたの常に仕える神が、あなたを救われるように」との王の言葉がとても心にひびきます。

# 11月24日(水)

聖書

ダニエル 6・10～13

聖句

以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した。 10節

もしあなたがただったらどうしますか？そのような文書が署名されたことがわかっていたら…窓を閉じて、だれにも見られないようにお祈りしたらいいじゃないと思いませんか？ダニエルはというと、二階の部屋の、エルサレムに向かって窓の開かれた所で、だれにでも見られる所で、以前からずっとおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝したのでした。「見た！見たぞ！総監や総督たちはさっそくに王の前に出かけました。」

いの祈り

天のお父様、どんな中でも、ダニエルの祈りの習慣は少しも変わりませんでした。私もならっていきたいです。

# 11月27日(土)

聖書

ダニエル 6・23～28

聖句

わが国のすべての州の人は、皆ダニエルの神を、おののき恐れなければならぬ。 26節

ねたんんだり、人をおとし入れたりする人に、神様のおとり扱いはとても厳しいです。ダニエルを訴えた人々は、奥さんも子どももみんな、ししの穴に投げ入れられ、ししはとびかかって、骨までもかみ砕いたとあります。しかし、神様をいつでも、どんな時でも、第一にしていたダニエルを、神様は、ししの口からも完全に守られました。それだけでなく、まことの神を拝まないダリヨス王とその国の人々の前に、「ダニエルの神」が高く高くあがめられました。

いの祈り

天のお父様、あなたを心から信頼する者が守られるだけでなく、あなたのみ名があがめられることを覚えます。

# 11月26日(金)

聖書

ダニエル 6・19～22

聖句

わたしの神はその便をおくって、ししの口を閉ざされたので、ししはわたしを害しませんでした。 22節

小さいお友だちや若い人たちは、夜、全然眠れないなんてことはないでしょう。ここでもダリヨス王は、さすがに食べられない、眠れない夜を過ごしたのです。朝早く外に出て、ししの穴へ急ぎ、近づいて、「生ける神のしもべダニエルよ」と、もしかしたらライオンにかみ砕かれているかも、と想像しながら悲しそうに呼びました。すると、中からダニエルの元気な声！「王様、わたしの神がししの口をふさいで、これ、このとおり、わたしはピンピンしています」と。

いの祈り

天のお父様、ダニエルのように、わたしもあなたを、「わたしの神」と信じお頼りし、お従いしお仕えいたします。

# 11月28日(日)

聖書  
聖句

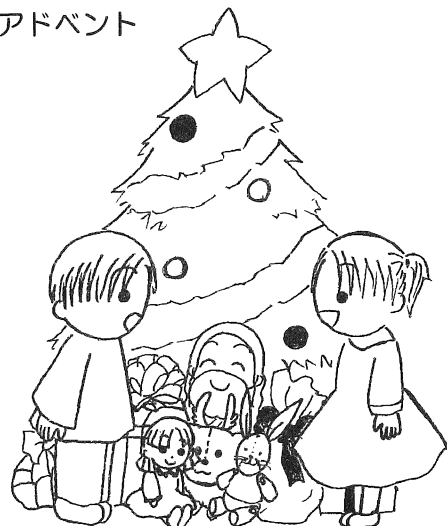
マタイ 1・18～25

彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。 21節

今年もアドベント(待降節)に入りました。ろうそくに一つ灯りがつきます。クリスマスマスを心からお迎えするよい準備の時としましょう。さて、あなたの名前は生れる前から決まっていたのかな? 生れたあとで、お父さんとお母さんが相談して決めたのかな? 「イエス」という名前は、主の使いにによりマリヤさんにもヨセフさんにも生れる前に伝えられました。旧約では、「ヨシユア」も同じ「救い主」という意味をもっています。罪からの、たった一人の救い主なのです。

いのちの祈り  
天のお父様、私を罪から、恐ろしい永遠の滅びから救うために、イエス様を与えてくださって心より感謝します。

## I アドベント



聖書

マタイ 1・18～25

テーマ

キリストの誕生

暗唱聖句

彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。

マタイ 1・21

もく 目 標

キリストを罪からの救い主として信じる。

カリキュラム番号 35

# 11月30日(火)

聖書  
聖句

マタイ 1・20～21

その胎内に宿っているものは聖霊によるのである。 20節

マリヤが、「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」(ルカ 1・38)と、何もかも神様にゆだねきっていたので、神様は責任をもって、ヨセフに語られました。悩みに悩んでいるヨセフに、主の使いが夢に現れて知らせました。「心配しないでマリヤを妻に迎えなさい。胎内に宿る子は聖霊によるのだから。生れる男の子をイエスと名づけなさい。罪からの救い主だから」と。聖霊によって宿ったので、清い血で救えるのですね。

いのちの祈り  
天のお父様、イエス様の誕生が聖霊によるもので、マリヤもヨセフも戸惑いました。でも、だからこそ私たちを救えるとわかりました。

# 11月29日(月)

聖書  
聖句

マタイ 1・18～19

イエス・キリストの誕生の次第はこうであった。 18節

あなたがどのようにして生れてきたのかを、お母さんにたずねるのもいいかも。イエス様の場合は、本当に不思議で、とてもドラマティックでした。何しろ神のひとり子の誕生なのですからね。お母さんとして選ばれたマリヤさんは、ヨセフと婚約中でしたが、一緒になってもいけないのに、聖霊によって、イエス様がお腹に宿られたのでした。びっくりしたのはいいなずけのヨセフさん。「えーっ!? どういうこと? 離縁した方がいい」と決心されたのです。

いのちの祈り  
天のお父様、この中で、マリヤは何もかもあなたにおまかせして、ヨセフには黙って、ゆだねていたことに感動です。

## 12月2日(木)

聖書

イザヤ7・10～17

聖句

見よ、おとめがみごもって男の子を産む。  
その名はインマヌエルとなえられる。  
14節

では、イザヤの預言の所を開いて、そこに赤線を書いてしるをつけておきましょうか。「イエス様の預言」としてね。きょうは、「インマヌエル」について考えます。神様が私たち人間と共にいてくださるという、とてもうれしく素晴らしい言葉です。実はイエス様そのものが、「神と人」とが共にいます「お方」です。神様が人の形をとってきてくださったのですから。そしてそのイエス様がいつも、いつまでも私たちと共にいて、救い続けてくださるのです。

いのちの祈り

天のお父様、目には見えなくても、インマヌエルの神が私と共にいてくださると思うと、罪はとも犯せません。

## 12月1日(水)

聖書

マタイ1・22～25

聖句

見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。  
23節

私たちが生きてきた時、その八か月が九か月くらい前に、お医者さんがお母さんに、「赤ちゃんが生まれますよ。まだ男の子か女の子かわかりませんけど」と伝えたと思います。ところが、イエス様の時には、七百年以上も前に預言者イザヤによって告げられていたのです。しかも「男の子」です。「おとめ」から生まれます。その名前は、「インマヌエル」と呼ばれますとね。その意味は、「神われらと共にいます」。一つ一つが不思議でいっぱいです。

いのちの祈り

天のお父様、あなたの預言は、何百年たってもそのとおりになります。イエス様の誕生も預言の成就と知りました。

## 12月4日(土)

聖書

マタイ9・9～13

聖句

わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである。  
13節

罪から私たちを救うために、人となつてこられたイエス様の誕生について書いたマタイが、ここにもイエス様がこられた大切な目的を記しています。マタイ自身がイエス様の招きを受けて、収税所からはなれて、イエス様の救いに入れられ、弟子とされました。お祝いの席にはたくさんのお客さんや罪人たちが招かれていました。パリサイ人たちがそのことを非難すると、「医者がいるのは病人だ。わたしは義人ではなく罪人を招いて悔い改めさせるためにきた」と言われました。

いのちの祈り

天のお父様、イエス様だけが私たちの罪を十字架でゆるしてくださって、永遠の滅びから救うお方と信じます。

## 12月3日(金)

聖書

マタイ9・1～8

聖句

子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ。  
2節

中風という病気で苦しんでいる人もまわりの友人たちも、「ああ、何とかこの病気をなおしてもらえたら」と、イエス様のところにやってきました。するとイエス様は、中風のの人に、「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と言われたのです。神様は病気がいやされることよりも、死の病と言われる「罪」がゆるされ、きよくされることの方がよほど大切なのだと言われます。身体は元氣なあなた、罪ゆるされて救われていますか。

いのちの祈り

天のお父様、イエス様を罪からの救い主と信じて、心と魂の病である罪をゆるして頂いて清く歩みたいです。

# 12月5日(日)

聖書  
聖句

ルカ 2・1～20

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。 11節

どこもかしこもクリスマス、デコレーションでいっぱい。クリスマス・ケーキのご予約もどうぞ。夜になると、町中イルミネーションでキラキラ。でも、本当のクリスマスを迎えてほしいですね。「あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである」。ツリーを飾っても心は同じ、ケーキを食べても心は同じ、では困ります。私の心の中の醜く恥かしい罪を心から悔い改めて、心に救い主をお迎えします。そうしてはじめて、クリスマスおめでとう、です！

**いのちの祈り** 天のお父様、一番大切なクリスマスニュースは、救い主イエス様です。この方を心に迎えて、本当のクリスマスをお祝いします。

Ⅱアドベント



聖書

ルカ 2・1～20

テーマ

救い主を心に

暗唱聖句

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。 ルカ 2・11

目録

救い主として生まれてくださった主を心にお迎えする者となる。

カリキュラム番号 36

# 12月7日(火)

聖書  
聖句

ルカ 2・8～10

おそれるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。10節

神様からの全人類へのウルトラ・ビッグ・ニュース！「救い主誕生」のニュースは、だれに一番に伝えられたかというと――野宿して羊の群れの番をしていた羊飼いたちでした！「神様、何かのまちがいは？」と思うくらい、彼らはちゃんと律法も守れず、社会からのけもの扱いされていたのですから。でも、神様は愛情深く純粋な人々を選びました。「すべての民に与えられる大きな喜び」、それは心に救い主をお迎えするという、だれにとっても大きな喜びのニュースでした。

**いのちの祈り** 天のお父様、心貧しくへり下る人の心にイエス様がお宿りになり、それこそが「大きな喜び」だと思ひます。

# 12月6日(月)

聖書  
聖句

ルカ 2・1～7

初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。 7節

あなたが生れた時、もちろんベッドのふかふかしたおふとんの上に寝かせてもらったでしょうね。ところが、救い主イエス様は、家畜小屋の中でオギヤーと生れ、布にくるまれて、牛や馬がごはんを食べる飼葉おけの中に寝かせられたのです。わががしいてあつたとしても、飼葉おけは石造りの堅く、冷たく臭く、汚れたものでした。それはちょうど、私たちの生れつきの心のようです。イエス様はそんな私たちの心にさえも、きよくして住んでくださいます。

**いのちの祈り** 天のお父様、神のひとり子イエス様が、飼葉おけのような私の心にさえもお入りくださり、ありがとうございます。

# 12月9日(木)

聖書

ルカ 2・13～14

聖句

いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心になう人々に平和があるように。 14節

今だから、地上のだれも見なかったことのような光景。おびただしい天の軍勢と御使いが一緒になって神様をさんびします。今だから、地上のだれも聞いたことのないようなコーラス！一体、どんな声で、どんなメロディーでさんびしたのでしょう？！救い主がとも卑しく貧しくお生れになったことが、神の栄光となっているのです。天の軍勢は平和を告げ知らせます。救い主は、「平和の君」として来られました。心にお迎えして、心の内にまず神様との平和を。

いのちの祈り 天のお父様、最初のクリスマス・キャロルはあなたが天で響かせてくださいました。心に主を迎えほめたたえます。

# 12月8日(水)

聖書

ルカ 2・11～12

聖句

あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであらう。 12節

羊飼いたちの驚きと恐れは、大変なものだったでしょう。いつものように、暗やみの中、獣がおそってこないように目を光らせて番をしていたら、いきなり、突然、目がつぶれるかと思うような天からの主の栄光が、めぐり照らしたのですから。おまけに、それは待ちに待ったメシヤ誕生のニュースではありませんか。「恐れるな」と言われども：ガタガタ、心臓ドッキンドッキン。それで救い主のしるしは何だ？「飼葉おけの中の布にくるまった幼な子」だそうだ。

いのちの祈り 天のお父様、そんなしるしだったから、羊飼いたちは安心して拝みに行けたと思います。あなたの愛は大きいです。

# 12月11日(土)

聖書

ルカ 2・16～20

聖句

彼らに会った上で、この子について自分たちに告知知らされた事を、人々に伝えた。17節

羊飼いたちは急いで行ったのです。心わくわくさせながらね。何しろ、何百年も、何千年も国中で待ちに待っていた救い主が、すぐそこにお生れになったというのですから。そして、マリヤとヨセフ、飼葉おけに寝かしてある幼な子をついに捜しあてました。その時の心の感動はどんなだったでしょう！羊飼いたちは何もかも御使いから聞いたとおりだったので、神をあがめさんびしながら帰りました。人々にも伝えました。心に主を迎えたと伝えたくなのです。

いのちの祈り 天のお父様、羊飼いたちの喜びと宣伝の様子が目に浮かびます。私もイエス様のことを皆に伝えていきます。

# 12月10日(金)

聖書

ルカ 2・15

聖句

さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか。 15節

心が柔らかで、純粋な羊飼いたちは、やっぱり神様が一番にこのニュースを伝えるのにふさわしい人々だったのだと納得しました。あ、美しく照り輝いてさんびしていた大群が天に帰ってしまった、あたりはまた暗い野原にもどりました。でも、羊飼いたちの心にはしっかりと焼きついていました。「救い主だ、ベツレヘムの飼葉おけだぞ。さあ、見に行つてこよう」とね。私たちもいつも柔らかい心でみ言葉を讀んだり覚えたりすると、きっと救い主と会えるのです。

いのちの祈り 天のお父様、素直に聖書を読んだり、み言葉を聞いて、柔らかい心で信じ受け入れます。そして、心にイエス様をお宿します。



# 12月12日(日)

聖書

ヨハネ 1・1～5、9～14

聖句

すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。 9節

いよいよⅢアドベント、クランツのろうそくが三つともりました。クリスマスシーズンで、目立つもう一つのこととは、「光」ですね！ キヤンドルの光、イルミネーションの光、星の光です。二十四日のイヴには燭火礼拝をする教会も多いでしょう。これは何を示しているかというところ、キリストは光として来られたということですね。「すべての人を照すまことの光」としてね。キリストこそまことの光で、心の影、罪を示し、ゆるし、きよい心で正しい道を歩めるようにしてください。

**いのちの祈り** 天のお父様、このクリスマスに、光なるイエス様を信じ受け入れて、光の子とされ、光の中を歩んでいきたいです。

## Ⅲアドベント



聖書

ヨハネ 1・1～5、9～14

テーマ

すべての人を照らす光

暗唱聖句

すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。 ヨハネ 1・9

目標

光なるキリストを信じ受け入れる。

カリキュラム番号 37

# 12月14日(火)

聖書

ヨハネ 1・3

聖句

すべてのものは、これによってできた。 3節

おもちゃでもゲームでも何でも、「コレ、どうやってだれが作ったのかなア」って思うでしょう。じゃ、「この世界、いや大宇宙、そしてその中にあるすべてのもの——こう書くのは簡単だけど、大変な量だし、大変な種類だし、大変込み入って複雑にできてますよ——はどうやって、だれがつくったのだろう？」と考えると……ここにパンツ！と答えが記されています。すべてのものは、これ、もつと良い言い方は、この方によって、つまりイエス様によってできたのです！

**いのちの祈り** 天のお父様、イエス様がどんなにか力強く、知恵に満ちたお方かわかり、感心してしまいます。学ばせてください。

# 12月13日(月)

聖書

ヨハネ 1・1～2

聖句

初めに言があつた。言は神と共にあつた。言は神であつた。 1節

すべてのことには「初め」がありますね。あなたが教会に来たのはいつなのかな？あなたが「初めて」「この世界に誕生したのが、あなたの誕生日ですね。この世界の「初め」っていうのはどうだったのかな？「初め」に言があつたということです。この言というのはギリシャ語では「ロゴス」と言って、実はイエス様のことを指しているのです。「初め」にイエス様がいて、神様と共にあられて、イエス様も神様であつたということになります。

**いのちの祈り** 天のお父様、イエス様は神様であつて、あなたと共に世界のできるその前、「初め」におられたと知りました。

# 12月16日(木)

聖書

ヨハネ 1・9～11

聖句

彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受け入れなかった。 11節

あなたが「オギャーッ!」って生れた時、お父さんもお母さんも、おじいちゃん、おばあちゃん、お兄さん、お姉さんもとつても喜んで、「ウエルカムー!」って、大歓迎だったにちがいありません。お家の人に聞いてみてください。イエス様の時はどうだったでしょうね? 残念ながらウエルカムではありませんでした。ここで自分の民と書かれています。ユダヤ人たちは、イエス様を受け入れなかったばかりか十字架につけてしまいました。今も受け入れていないのです。

いのちの祈り  
天のお父様、あなたのひとり子イエス様を受け入れない人たちがいることを知りました。私は受け入れたいです。

# 12月15日(水)

聖書

ヨハネ 1・4～5

聖句

光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。 5節

だれもいないまっ暗なお部屋にひとりで入って行くのは恐いですか? 「暗いろうかを通って、ひとりです。トイレに行くのも恐いよ」という子もいるでしょう。その時、ライトがあるとパッと明るく照らしてくれて安心ですね。暗いお部屋も電氣をつけるとパッと明るくなって、やみはなくなってしまう。イエス様は光です。罪のやみを追い払ってください。やみの力、サタンの力もイエス様には勝てません。光なるイエス様を信じると毎日が勝利です。

いのちの祈り  
天のお父様、命であり、光であるイエス様をこの地上におつかわしくくださり感謝します。信じて従っていきます。

# 12月18日(土)

聖書

ヨハネ 1・14～18

聖句

それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた。 14節

「言なるイエス様はね、私たちと全く同じ肉体をもつ人となって、私たちの中に来てくださったんだよ。でもねイエス様は栄光に輝いておられるんだ。まぶしいくらいにね。それは輝く天におられる父のひとり子としての栄光。そう、めぐみとまことに満ちた栄光なんだよ」と愛の弟子ヨハネは言います。愛とやさしさと真実がイエス様の中からあふれ出て、栄光に包まれておられたのですね。私たちも言葉の心に覚え、お祈りしてそんな人になりたいね。

いのちの祈り  
天のお父様、イエス様のように、あなたの栄光を輝かせていける、神の子として生きていきたいと祈ります。

# 12月17日(金)

聖書

ヨハネ 1・12～13

聖句

彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。 12節

しかし、がっかりすることはありません。光なるイエス様を受け入れる人々、イエス様のお名前、つまり救い主を信じる人々が次々と起こってきているからです。あなたもその中の一人ですか? そのような人々には、「神の子」となる力、特権をイエス様が与えてくださるのです。すごいですね、「神の子」ですよ! 血すじとか、人間の欲とかによって生まれたのではなく、ただ純粋に神様によって生れた「神の子」なのです。父なる神様ありがとうございます!

いのちの祈り  
天のお父様、あなたのひとり子イエス様を信じ受け入れる時、私も神の子としてくださって、感謝いたします。

# 12月19日(日)

聖書

ヨハネ 3・16～18

聖句

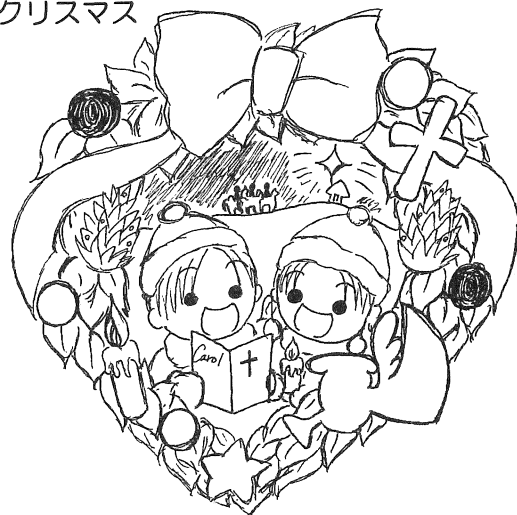
神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。 16節

二〇一〇年のクリスマス、おめでとうございます！ きょうはクリスマス礼拝。その中で洗礼を受けるお友だちがいたら、二重におめでとう!! あとは、二十五日の朝が楽しみだなあと思っていいますか？ クリスマス・プレゼントの朝ですものね。最高のクリスマス・プレゼントをもう受け取っていますか？ それは、神のひとり子、救い主イエス様のことです。このプレゼントを心から感謝して信じて受け入れてはじめて、クリスマスおめでとうと言えるのですね。

いのちの祈り

天のお父様、あなたからのクリスマス・プレゼントであるイエス様を、私の救い主として信じて受け取ります。

クリスマス



聖書

ヨハネ 3・16～18

テーマ

神のプレゼント

暗唱聖句

神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。

ヨハネ 3・16

目標

救い主キリストを神からのプレゼントとして信じ受け入れる。

カリキュラム番号 38

# 12月21日(火)

聖書

ヨハネ 3・16

聖句

神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。 16節

きょうの言葉は、『そのひとり子』です。これは「最も偉大な贈り物」です。あなたは何人兄弟、何人姉妹なのかな？ ふたり、三人、五人、七人！ それともひとり子？ 子どもがたとえ何人いたとしても、親にとっては、ひとりひとりがかけがえのない大切な存在なのです。それがもし『ひとり子』だったとしたら、どんなに大切なことか！ 神様にとつてたつたひとりの御子イエス・キリストを神様はプレゼントとしてくださいました。「最も偉大な贈り物」でした。

いのちの祈り

天のお父様、あなたにとっては本当にかけがえのない大切な『ひとり子』をお与えくださって感謝いたします。

# 12月20日(月)

聖書

ヨハネ 3・16

聖句

神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。 16節

今週は、日曜日から金曜日まで、毎日同じみ言葉です。しっかりと心に刻めますね。み言葉のひとつひとつを味わいます。すべての言葉は、「最も偉大な」がつけられる言葉なのです。まずは「神」です。このお方は、「最も偉大な愛のお方」ですね。『神は愛である』というのが聖書の中心的なみ言葉です。愛をもって、世界を造り、私たち人間を造り、愛をもって、今も宇宙を支え、私たちひとりびとりに導いていてくださいます。その愛は永遠です。

いのちの祈り

天のお父様、本当にあなたは、「最も偉大な愛のお方」です。あなたを信じることができて、本当に幸せです。

# 12月23日(木)

聖書

ヨハネ 3・16

聖句

神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。 16節

さて、きょうはまた次の言葉です。『この世』これは、「最も大きな数」と言えるでしょう。今まで地球上にいたすべての人々、全世界の人々、これからこの世に生れてくるすべての人々、この世のすべての人々、ほんとうに最も多い数です。神様はすべての人を愛していただくさるのです。大切なひとり子を与えてくださるほどに。すべての人、そして、ひとり、ひとりです。『この世』の代わりにあなたの名前を入れて、きょうのみ言葉を暗唱してくださいね。

いのちの祈り

天のお父様、大勢の中で、かき消されそうですが、この「私」を愛していてくださることを信じられ感謝です。

# 12月22日(水)

聖書

ヨハネ 3・16

聖句

神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。 16節

きょうの言葉は、『賜わった』という言葉になりますね。ちょっと、古い言い方だけど、わかりやすく言えば『与えてくださった』ということですよ。これは、「最も偉大な行い」ということになります。うーん、与えることより、やっぱり、与えられる、つまり、もらっちゃう方がいいなと、みんな考えるでしょう。クリスマスはプレゼントをもらう日、とね。そういう人々の考えの中で『与える』ということは本当に、「最も偉大な行い」なのです。

いのちの祈り

天のお父様、もらうことばかり考える私たちのために、あなたは最も偉大な行いをなさってください、感謝します。

# 12月25日(土)

聖書

ヨハネ 3・16

聖句

それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。 16節

最後に、『永遠の命』という言葉です。これは、「最も偉大な持ちもの」と言えます。あるいは、「最も偉大な命」です。あなたが「オギヤ」と生れて、そのままの命だったら、その命は滅びていく命ですよ。でも、罪がわかって、イエス様の十字架が私の身代わりだったんだと、罪をおわびして、イエス様を信じたら、その時、新しい神様の命、滅びない永遠の命、罪を犯せない清い命がもらえます。たとい一度死んでもよみがえる命ですよ！

いのちの祈り

天のお父様、何という驚くべき、あなたからのクリスマス・プレゼントでしょう！ 救い主イエス様を信じます。

# 12月24日(金)

聖書

ヨハネ 3・16

聖句

神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。 16節

そして、『愛して』くださったのです。これは、「最も偉大な限度まで」の愛なのです。私たちが仲良くしたり、好きになったりするお友だちって、どんな子たちでしょう？ 私に親切にしてくれたり、やさしくしてくれるお友だちでしょうか？ 神様は、どんな人間を愛してくださったのか考えてみたことがありますか？「神様なんか」って背中を向けたり、罪ばかり犯し続けている、そんな私たちを愛して下さるのです！ 最大級の犠牲を払ってくださいね。

いのちの祈り

天のお父様、人間の中には本当の愛はありません。あなたが愛して下さって初めて愛を知ることができました。

12月26日(日)

聖書

詩篇103・1～22

聖句

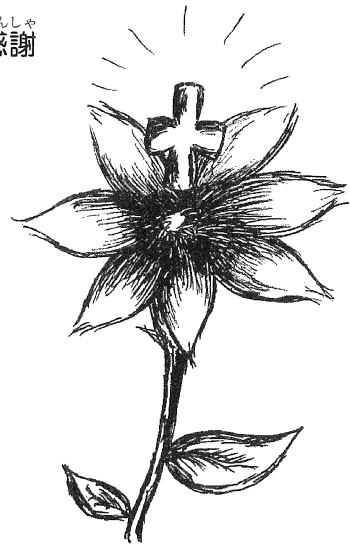
わがたましいよ、主をほめよ。そのすべてのめぐみを心にとめよ。 2節

神様を信じる人は、晴れてもアーメン、雨でもハレルヤ！今年最後の日曜日となりました。この一年間、いろんなことがあったでしょう。晴れの日も、曇りの日も、雨の日も、台風の日も、大雪の日も。そんな一年の内に、神様は私たちひとりひとりにどんなにしてくださったことでしょうか？「主の良くてくださったことを何一つ忘れるな」(新改訳)です。一つ一つ思い出し、感謝のお祈りをしましょう。心はあふれて思わずハレルヤ！主をほめよ、と叫ぶでしょう。

いのちの祈り

天のお父様、この一年もあなたの愛とめぐみがありありがとうございます。たましいの底から感謝をささげます。

ねんまつかんしゃ  
年末感謝



聖書

詩篇103・1～22

テーマ

恵みを覚えて

暗唱聖句

わがたましいよ、主をほめよ。そのすべてのめぐみを心にとめよ。 詩篇103・2

目標

一年の恵みを覚え、神に感謝をささげる。

カリキュラム番号 39

12月28日(火)

聖書

詩篇103・3～5

聖句

あなたの生きながらえるかぎり、良き物をもってあなたを飽き足らせられる。 5節

「神様、ごめんなさい」とおわびしなければならぬ時もあつたでしょう。神様はその時、イエス様の十字架のゆえに、すべてゆるしてくださったでしょう。病気になるって、痛かったり、不安でいっぱいになったこともあつたでしょう。でも神様はすべての病気をなおしてくださったでしょう。私たちが罪から救って、あわれみの心を注いでくださいました。この神様は、私たちが地上に生きている限り、必要な良き物で、身も心も満足させてくださいます。

いのちの祈り

天のお父様、こんなによくしてくださり、身も心も魂も満たしてくださるあなたをますます信頼していきます。

12月27日(月)

聖書

詩篇103・1

聖句

わがたましいよ、主をほめよ。わがうなるすべてのものよ、その聖なるみ名をほめよ。 1節

詩篇103篇の中で、「わがたましいよ、主をほめよ」と、三回も呼びかけています(1、2、22節)。「主をほめよ」という言葉のヘブル語が、「ハレルヤ」なのです。そしてここには、「わがうちなるすべてのものよ、その聖なるみ名をほめよ」とあります。もしかしら教会の礼拝でさんびする時、口先だけする時もあつたかも。「うちなるすべてのもの」ですから、心も魂も全力あげてです。ね。「神様を精一杯ほめたたえることに集中するのだ！」と。

いのちの祈り

天のお父様、ただあなたのめぐみを思い、他のことは全部おいといて心の底から思い切りあなたを賛美いたします。

# 12月30日(木)

聖書  
聖句

詩篇103・13～14

父がその子供をあわれむように、主はおのれを恐れる者をあわれまれる。 13節

お父さんにだっこしてもらったり、おんぶしてもらったり、ひざの上で遊んでもらったり、ひこうきしてもらったり、いろいろ思い出しますか？お父さんは小さいあなた、あぶなっかしいあなたがかわいくてたまらなくて、目を細めて守っていてくれるのです。神様もそんなお父さんのように、神様をうやまい恐れ、愛する私たちに、あわれみの心をかけて守ってくださいます。なぜなら、私たちは、ちりから造られた弱い者だからです。

いのちの祈り  
天のお父様、この一年も、弱い私をあわれみ、いつも共にいて、守ってくださったことをありがとうございます。

# 12月29日(水)

聖書  
聖句

詩篇103・6～12

東が西から遠いように、主はわれらのとがをわれらから遠ざけられる。 12節

東から、朝になると明るい太陽が昇ってきます。夕方になると、とってもきれいな夕焼けの中を、赤い太陽が西へ沈んでいきますね。東と西、それは全く反対方向、東が西から遠いように、そう、東と西とは絶対に合うことはありません。ずっと、ずっと遠く離れていきます。神様はそのように、私が犯してしまった罪やあやまちを、私から遠ざけてくださるといいます。『すごいなア、うれしいなア、ありがたいなア』としみじみ感じています。

いのちの祈り  
天のお父様、あなたを信じる者のために、それほどにもして罪を遠ざけてくださることを、心から感謝いたします。

# 1月1日(土)

聖書  
聖句

詩篇103・20～22

主が造られたすべての物よ、そのまつりごとの下にあるすべての所で、主をほめよ。わがたましいよ、主をほめよ。 22節

ハッピー・ニューイヤー!! 主のご支配の年、AD二〇二一年、あけましておめでとうございます! この年も、「わがたましいよ、主をほめよ」で始め、そして毎日それで過ごし、年の終りもそれでしめくられたらいいですね。そして、明日は、今年最初の日曜日です。昨年は、五十二回の日曜日のうち、何日教会へ行ったのかな? 今年は、昨年よりもっとと神様に近づけますように。毎週のはじめに、「わがたましいよ、主をほめよ」と賛美しましょう。

いのちの祈り  
天のお父様、新しい年の始めの日、あなたを心より礼拝し、ほめたたえて始められますことを感謝いたします。

# 12月31日(金)

聖書  
聖句

詩篇103・15～19

主はその玉座を天に堅くすえられ、そのまつりごとはすべての物を統べ治める。 19節

この一年のうちに、愛する人を天に送ったお友だちもいますか。人の一生って、ほんとにすぐ枯れる草や花のようだと思います。でも、神様を信じる信仰はいつまでもとこしえまで、子らや孫らにと、その祝福が受け継がれていくので心が安らぎます。神様こそが、天の玉座にお座りになって、天と地と、宇宙や世界、国々を、そして人間を、この私をも(ー)愛のみのままに治めていてくださいます。一年の最後のこの日、もう一度、主をほめよ!

いのちの祈り  
天のお父様、雄大なあなたのご支配の中に、この私の一生も入れていてくださることを覚え、ほめたたえます。